

スポーツ・健康科学部・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部は、本学の建学精神とその教育理念に基づき、国民の健康の維持と増進を視野に、スポーツを通して文化の発展と健康づくりに貢献できる人材の育成、医学・健康関連分野で健康の増進に寄与できる人材の育成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ・健康科学部は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（スポーツ科学、健康科学または看護学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) スポーツ科学・健康科学・看護学分野の基礎知識・理論の総合的な理解とともに、専門知識と実践的スキルを習得している。
- (2) 幅広い教養を身につけることにより、広い視野からスポーツ科学・健康科学・看護学を実践的に役立てることができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 他者に対し常に思いやりの心を持ち、責任感と倫理観に基づいて思考・判断・行動することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) スポーツの振興、健康の保持・増進といった社会的使命を認識して、社会貢献・地域貢献の一環としてスポーツ科学・健康科学・看護学を社会に役立てることができる。
- (2) 自己のキャリアを切り開いていく強い意欲を持つとともに、社会の動向に深い関心を持ち、社会の発展のために自身の能力を役立てるという使命感を有している。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 社会における多様性を受容することができ、かつ尊重し適応することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

スポーツ・健康科学部（スポーツ科学科・健康科学科・看護学科）は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 全学共通科目の履修により様々な分野を学修することで、幅広い教養を修得するとともに豊かな人間性を養う。
- (2) 外国語科目として、1～2年次において英語を必修とするとともに、選択科目として中国語、韓国語、フランス語及びドイツ語を選択する。さらに各学科において、教育課程の方針に応じた外国語教育の科目を開講する。これらを通じて、異文化への理解を促すとともに外国語コミュニケーション能力および国際性を養う。
- (3) 初年次および2年次において、大学生としての基本的知識・技能と各学科の専門分野を学ぶための基礎的能力の養成、ならびにリメディアル教育あるいはキャリア教育のために、各学科独自の科目

を開講する。

- (4) 専門教育科目について、各学科はそれぞれスポーツ科学・健康科学・看護学の専門性に応じて、おもに1年次・2年次にて基礎的な科目群を学修し、年次進行とともに発展的な科目群について講義による授業形態に加えて、実技・演習・実習形態の授業により学修するように体系的なカリキュラム構成となっている。
- (5) スポーツ科学・健康科学・看護学の分野における各種資格に必要な科目群を、年次進行に合わせて配置する。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニングおよびICTを取り入れた授業を展開する。
- (2) 専門教育科目においては、各種実習・演習授業を通してより実践的な能力を修得させる。
- (3) 3年次および4年次において、少人数制によるゼミナールを開講し、インタラクティブな教育を通じて、学生の主体的な学修を促進する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針に掲げた項目に関する形成的評価として、卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テストおよび学科の専門性に応じた各種テストなどを用いる。
- (2) 国家試験および各種資格試験受験者に関しては、4年間の認知領域の学修成果について、それら試験の結果によって評価する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ・健康科学部は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) スポーツ科学・健康科学・看護学を学ぶための十分な基礎学力を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 課題に取り組むにあたって、論理的に思考し、判断することができる。
- (2) 自分の考えを明確に表現するとともに、他者の意見に耳を傾けることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) スポーツ科学、健康科学、看護学に強い関心を持ち、高い意欲を持って学習に励むことができる。
- (2) 自分自身の人間性を成長させるべく、常に努力を怠らない姿勢を有している。

スポーツ科学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部スポーツ科学科は、スポーツ科学に関する学識を修め、人間性豊かなスポーツ指導と健康づくりの能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（スポーツ科学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 豊かな人間性と社会性の基となる幅広い教養を有し、スポーツ科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。
- (2) スポーツ科学に関する実践的知識・技能を修得し理解している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) スポーツ現場のさまざまな課題に対して、スポーツ科学に関連する研究方法を用いて考察することができる。
- (2) スポーツをはじめさまざまな場面において、自ら判断して科学的・体系的に指導することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) スポーツ科学に関する課題を探究し、主体的・継続的に学修することができる。
- (2) 社会の一員として自分の役割を自覚し、与えられた課題に対して挑戦力、問題解決力、及び行動持続力をもって対処することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 多様な社会のニーズを理解し、人間がもつ様々な能力を理解し、尊重することができる。
- (2) 本学の理念（多文化共生）に基づき、多様性を認め、地球的規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解力・共感力、コミュニケーション能力を発揮し、多文化社会における諸問題の解決に貢献できる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

スポーツ科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 1年次には、必修科目のスポーツ科学概論、生理学や解剖学などを通してスポーツ科学の基礎を学修し、2年次以降でスポーツ科学の専門的な各種分野を、3年次には各演習科目およびゼミナールにおいて専門的に学修する。
- (2) 実技科目として、1年次には陸上競技、水泳、器械運動を必修とし、2年次では各種球技系科目（基礎）を学修し、3年次の各種球技系科目（発展）さらにはコーチングへと発展させる。
- (3) 外国語科目として英語を1～2年次において必修とし、加えて中国語、コリア語、フランス語及びドイツ語の中から1つを選択することにより、外国語教育を通して、異文化の理解に加えて自国の言

語や文化を客観的に見直すとともに、バランスのとれた国際感覚を養う。

- (4) 専門科目とは別に、1年次の「フレッシュマンセミナー」を通じて大学生として身につけてほしい基礎的な能力を養い、2年次には「スポーツキャリアセミナー」により各自の進路について考え、目的を達成するために自ら行動する能力を育成する。
- (5) 4年間を通じて、全学共通科目を履修することにより幅広い教養を修得する。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、特に講義系の専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。
- (2) 3年生～4年生においては、ゼミナールを選択でき、より主体的な学修に取り組む。特に3年生では、スポーツをはじめとしたボランティア活動への参加を積極的に推奨する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、スポーツ科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 4年間の総括的な評価として、卒業時の学生によるアンケート調査によって評価する。
- (3) 教員採用試験受験者に関して、教員採用試験の結果は4年間の学修の明確な成果とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

スポーツ科学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) スポーツ科学を学ぶための十分な基礎学力及び実技能力を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 自己の考えを明確に表現し、他者の意見を素直に聞くことができる。
- (2) 課題に対して論理的に考察することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) スポーツ科学、スポーツ指導に強い関心を有している。
- (2) 社会の諸課題に対して自ら学ぼうとする高い学習意欲を持ち、継続的な努力ができる。
- (3) 人と人のつながりの重要性を理解し、他者を積極的に理解しようとする姿勢をもっている。

| |
|------------------------------|
| アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について |
|------------------------------|

| 入試方式 | 選抜方法 | アドミッション・ポリシー | | |
|-------------------------------------|------------------|--------------|-----------------|-------------------|
| | | 知識・技能 | 思考力・判断力 ・表現力 | 主体的に学習に 取り組む態度 |
| | | AP1 | AP2 | AP3 |
| 一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後)) | 大学入学共通テスト | ● | | |
| 一般選抜 (全学部統一入試 (前・後)) | 学力試験 (国・英) | ● | | |
| 一般選抜 (3 教科) | 学力試験 (国・英・選択) | ● | | |
| 一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試) | 英語民間試験結果 | ● | | |
| 総合型選抜 (自己推薦 (専願型)) | 課題 | ● | ● | |
| | 自己推薦書 | | ● | ● |
| | 個人面接 | | ● | ● |
| 学校推薦型選抜 (スポーツ) | 調査書 | ● | | |
| | 個人面接 | | ● | ● |
| 学校推薦型選抜 (公募制) | 調査書 | ● | | |
| | 小論文 | | ● | ● |
| | 個人面接 | | ● | ● |
| 特別選抜試験 (社会人・留学生) | 調査書 | ● | | |
| | 個人面接 | | ● | ● |

健康科学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部健康科学科は、生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（健康科学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 社会人として高いモラルと教養を有し、臨床検査学、食品科学、環境科学分野を含む健康科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。
- (2) 健康科学に関して修得した知識や技能を活用し実践的に役立てることができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 健康科学の現場の様々な課題に対して、健康科学に関連する手法を用いて考察することができる。
- (2) 学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を活用し、協同して社会的課題を解決できる。
- (3) 批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に表現することができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 健康科学に関する課題を探求し、主体的・継続的に学修することができる。
- (2) 医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、与えられた課題に対して、さらなる向上心や責任感を持って対処することができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 教養と高い倫理性を備え、グローバルな視野で異文化を理解し、課題を見つけて協同することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

健康科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。そして、本学の教育理念に基づき、医療・保健・健康マネジメント・科学教育の分野のスペシャリストを育成する。

1. 教育内容

- (1) 基礎教育科目・語学では、必修科目の生命倫理学、英語 A/B、および人文・社会系の全学共通科目（自由科目）を通じて、生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、社会性を学ぶ。
- (2) 専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成するための生化学 A、生理学、分子生物学の必修科目に加えて、さらに免疫学、血液学、病理学などの基礎医学領域から臨床医学総論、臨床病態学 A, B などの臨床医学領域に及ぶ科目についての講義・演習・実習の履修を通して、実学的かつ実践的な能力を育成する。
- (3) 初年次においては、基礎科学、基礎生物学、化学、健康科学基礎演習などのリメディアル科目にお

いて、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学ぶ。

資格関連科目として、臨床検査技師資格取得、食品衛生管理者、食品衛生監視員、第二種作業環境測定士などの4つの資格に関する専門科目を配置し、各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるよう教育課程を設定する。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、専門科目における各種の演習授業・実習授業を通して問題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。
- (2) 3, 4年次においては、少人数制によるゼミの履修を積極的に促進し、インタラクティブな教育を実施する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、健康科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
- (2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価として、毎学期、学年担任制およびゼミ担当教員による個人面談を実施する。
- (3) 4年間の総括的な学修成果として、ゼミ履修者の卒業論文の評価を行う。
- (4) 国家試験受験者に関しては、4年間の認知領域の学修成果として、国家試験の結果によって測定するものとする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康科学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 入学後の修学に必要な基礎学力を十分有している。
- (2) 豊かな人間性と深い学識を持って現代社会の様々な健康問題に対する課題の解決に努力することができる。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 獲得した知識や情報を基に自分の考えが的確であるかどうかを判断し、文章や発話によって正確に表現し、伝えることができる。
- (2) 課題に対して多面的かつ論理的に考察することで、より良い解決の手立てを思考し、結果を予測しながら実行することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 臨床検査学、食品科学、環境科学分野を含む健康科学に強い関心を有している。
- (1) 健康科学に対して自ら学び発展しようとする高い勉学意欲を持ち、持続可能な社会づくりに向けた態度と社会貢献への使命を持ち得ている。

| |
|------------------------------|
| アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について |
|------------------------------|

| 入試方式 | 選抜方法 | アドミッション・ポリシー | | |
|-------------------------------------|------------------------|--------------|-----------------|-------------------|
| | | 知識・技能 | 思考力・判断力 ・表現力 | 主体的に学習に 取り組む態度 |
| | | AP1 | AP2 | AP3 |
| 一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後)) | 大学入学共通テスト | ● | | |
| 一般選抜 (全学部統一入試 (前・後)) | 学力試験 (国・英) | ● | | |
| 一般選抜 (3 教科) | 学力試験 | ● | | |
| 一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試) | 英語民間試験 小論文 | ● ● | ● | ● |
| 総合型選抜 (自己推薦 (専願型)) | 自己推薦書 基礎学力テスト 面接 | ● | ● ● | ● ● |
| 学校推薦型選抜 (指定校) (スポーツ) | 調査書 面接 | ● | ● | ● |
| 学校推薦型選抜 (公募制) | 基礎学力テスト 面接 | ● | ● | ● |
| 特別選抜試験 (社会人・留学生) | 小論文 面接 | ● | ● ● | ● ● |

看護学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

スポーツ・健康科学部看護学科は、主体的に学問を探究し、人格形成とさまざまな人々への理解の涵養により、地域社会における生活者の健康回復・維持・増進に向けて創造的に活躍できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 知識・技能

- (1) 人間の尊厳を重んじる豊かな人間性と幅広い教養を備え、多様な文化的背景をもつ様々な看護の対象及び関係する多職種と円滑なコミュニケーションができる能力を身につけ、看護専門職としての倫理観に基づいた援助的関係、協働関係を築くことができる。
- (2) 社会の要請に柔軟に対応するために必要とされる専門的知識をもち、対象者の健康レベル・健康課題を成長発達に応じてアセスメントできる。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 看護職及び在宅療養を支援する保健医療福祉専門職の役割と、スポーツ・健康科学分野の専門職との連携により、疾病・介護予防に貢献するためのアプローチについて言語化し、実践できる。
- (2) 特定の健康課題のある看護の対象者が、住み慣れた地域社会で尊厳ある療養生活が送れるよう援助方法の計画立案及び具体的な援助を実践できる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 看護師としての職業的アイデンティティの基盤をつくり、専門職として生涯にわたり継続して専門的能力を向上させることの重要性を理解し、具体的なキャリアデザインを計画できる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 総合基礎科目（全学共通科目・基本スキル科目）、専門基礎科目（人体の構造と機能、疾病と治療、地域社会と医療福祉）、専門科目（看護の基盤、看護の実践Ⅰ、看護の実践Ⅱ、看護の実践Ⅲ、看護の統合）の3つの科目群で構成する。
- (2) 総合基礎科目では、深い教養と豊かな人間性を身につけ、異なる文化や考え方、多様な価値観が理解できるよう全学共通科目などで幅広い分野を学習する。また、1年次より、必修科目の基礎ゼミナール、コモンスキル、情報処理、人間関係論などを通して基本的な技能（ジェネリックスキル）を修得する。
- (3) 英語を第一外国語とし、英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ、医療英語、英語ゼミナールを1～2年次

を中心に学習する。医療英語では、外国人患者とのコミュニケーションスキルを、英語ゼミナールでは英語の文献抄読に必要なスキルを学習する。第二外国語として選択科目の中国語、コリア語、フランス語、ドイツ語を設定する。

- (4) 専門基礎科目では、さまざまな健康状態や発達レベルにある看護対象者を全人的に理解するため保健・医療・福祉の基礎とあり方を学習する。必修科目として、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅱ、人間と栄養、生化学、微生物学、疾病・治療学Ⅰ～Ⅴ、病態論、薬理学、郷土論（埼玉学）、公衆衛生学、保健医療統計学、医療情報学、保健医療福祉制度論などを1～3年次に配置する。また、臨床心理学概論、社会福祉学、生命倫理学を選択科目として配置する。
- (5) 専門科目では、看護の基盤を学習した上で、看護の実践Ⅰ（理論と方法）、看護の実践Ⅱ（臨地実習）、看護の実践Ⅲ（看護の発展）において対象や場に応じた看護学を学習し、さらに、看護の統合では体系的に看護学を学習する。

2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、ICT教育やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を積極的に採用する。病棟実習や看護技術演習などにおいては、タブレット端末にプリインストールした電子書籍を利用した学習を支援する。動画撮影・再生を通じた看護技術のフィードバックやクリッカー機能を用いた学習到達度の振り返りにより、インタラクティブな教育を実施する。
- (2) 教材を用いた自学自習・PBL型授業を実施する。批判的思考力（態度、経験、意識調査を背景）を評価した上で、ジェネリックスキル（思考力・文章作成能力など）、社会人基礎力、協調的問題解決力（チームで問題を解決する力）の育成を促す。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、看護学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト、OSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）などの結果によって測定する。
- (2) 国家試験受験者に関しては、4年間の認知領域の学修成果として、国家試験の結果によって測定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

看護学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 入学後の学修に必要な基礎学力としての知識を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 物事を多方面から論理的に思考することができる。
- (2) 自分の考えを的確に表現し、言語化することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 看護の対象者である人間が好きで、その健康に関わる諸問題について、深い関心と倫理観を備え、看護を学びたいという意欲がある。
- (2) 道徳的で積極的に他者とのかわり対話ができる態度を有している。

| |
|------------------------------|
| アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連について |
|------------------------------|

| 入試方式 | 選抜方法 | アドミッション・ポリシー | | |
|-------------------------------------|------------------|--------------|-----------------|-------------------|
| | | 知識・技能 | 思考力・判断力 ・表現力 | 主体的に学習に 取り組む態度 |
| | | AP1 | AP2 | AP3 |
| 一般選抜 (大学入学共通テスト 利用入試 (前・中・後)) | 大学入学共通テスト | ● | | |
| 一般選抜 (全学部統一入試 (前・後)) | 学力試験 (国・英) | ● | | |
| 一般選抜 (3教科) | 学力試験 (国・英・選択) | ● | | |
| 一般選抜 (英語民間試験活用 総合評価入試) | 英語民間試験結果 | ● | | |
| | 課題論文 | | ● | ● |
| 総合型選抜 (自己推薦 (専願型)) | 自己推薦書 | | ● | ● |
| | 小論文 | ● | ● | ● |
| | 個人面接 | | ● | ● |
| 学校推薦型選抜 (指定校) | 調査書 | ● | | |
| | 小論文 | | ● | ● |
| | 個人面接 | | ● | ● |
| 学校推薦型選抜 (公募制) | 調査書 | ● | | |
| | 小論文 | ● | ● | ● |
| | 個人面接 | | ● | ● |
| 特別選抜試験 (社会人・留学生) | 調査書 | ● | | |
| | 個人面接 | | ● | ● |